

北日本新聞七月六日の二十六面の記事

子供自転車県大会の記事を読んて

鷹栖小学校 六年 小竹 稟々花

縦十三センチ、横九、五センチ私の手は
どのこの記事に、二年間という長い時間を私
はかけました。

“子供自転車県大会”知らない人も多い分、
見逃かしそうなものですが、私の手元へ何人
との方から、そのスクラップが届きました。

「個人優勝おめでとう。全国大会とがんばっ
てね。応援してるからね。」

そういう温かいメッセージと共に集まったそ
れは、私の一生の宝物です。

宝物を持つた分だけ、自分に自信が持てま
した。“努力は必ず、むくわれる。”を実感す
ることかできました。見ている人は、ちゃん
と見てくれていると思うと自然に自主練への
意欲も高まりました。

そして私は大きな目標を持ちました。

「次は、全国大会で入賞して、この二倍くら

この記事にみんなでのせてもらうんだ！
県大会の翌日から休けいすることなく、毎日毎日くり返して練習しました。一つクリアしても、次の課題が見えてきて、練習に取り組んでいないとむしろ落ち着かないくらいでした。先生が何度も「チームたかのす」を意識するようになんて教えてくれ、メンバーは仲の良いライバルとして競争しながら、力をつけていくのが、実感でさる日々でした。

そしてむかえた全国大会当日、東京ビックサイトという東京にしかないような大きな会場で、私は県大会の何十倍もの緊張感を持って自分の出番を待ちました。心臓の高鳴りが周りにも聞こえていかと思うくらいでした。そして競技は自分なりのベストをつくした中で、あ、という間に終わりました。

結果は、新聞に取り上げられることにはありませんでした。でも、終了後の集合写真は記事になっても良いくらい、みんないい笑顔をしていました。私はその写真を県大会の記事

と合わせて大切にしました。